

製品名: CGGBP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08720**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CGGBP1
別名	CGGBP1; CGGBP; CGG triplet repeat-binding protein 1; CGG-binding protein 1; 20 kDa CGG-binding protein; p20-CGGBP DNA-binding protein
遺伝子 ID	8545.0
SwissProt ID	Q9UFW8
免疫原	抗血清はヒト CGGBP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

背景

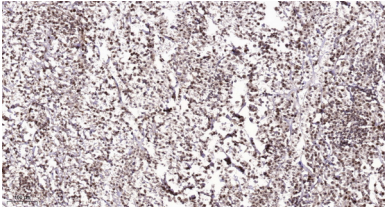
CGGBP1 は、脆弱 X 症候群 (MIM 300624) に関連する FMR1 遺伝子 (MIM 309550) の発現に、その 5'UTR の 5' (CGG) n-3'リ

ピートと特異的に相互作用することにより影響を及ぼします。[OMIM 提供、2008年3月], 発達段階: 胎児の脳と腎臓で発現。胎児の肝臓と肺では発現が低い。、機能: FMR1 プロモーター内のメチル化されていない 5'-d (CGG) (n) -3'トリヌクレオチドリピートに結合します。FMR1 プロモーターの制御に役割を果たす可能性があります。、その他: 結合モチーフの完全または部分的なシトシン特異的 DNA メチル化により、結合は著しく阻害されます。、PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。、組織特異性: 遍在。胎盤、胸腺、リンパ節、小脳、大脳皮質で高発現している。脳の他の領域では発現が低い。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。